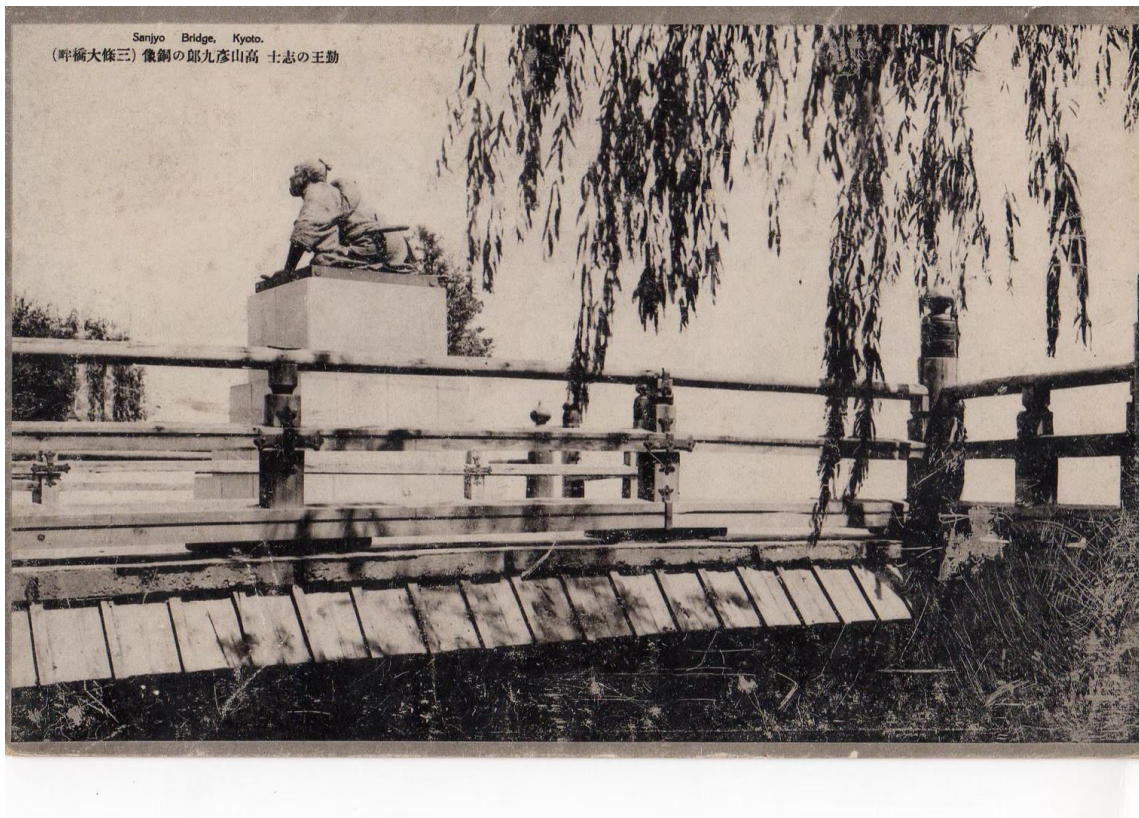


## もう一つの「三条大橋」

加藤龍之介

(2018 年度入学 鈴木ゼミ 2 期生)

昨年度のゼミにおいて、三条大橋の補修・修景事業を広める活動を行った。その過程で多くの絵葉書を見る機会があった。その中で、特に興味深い発見をしたので、紹介させていただきたい。



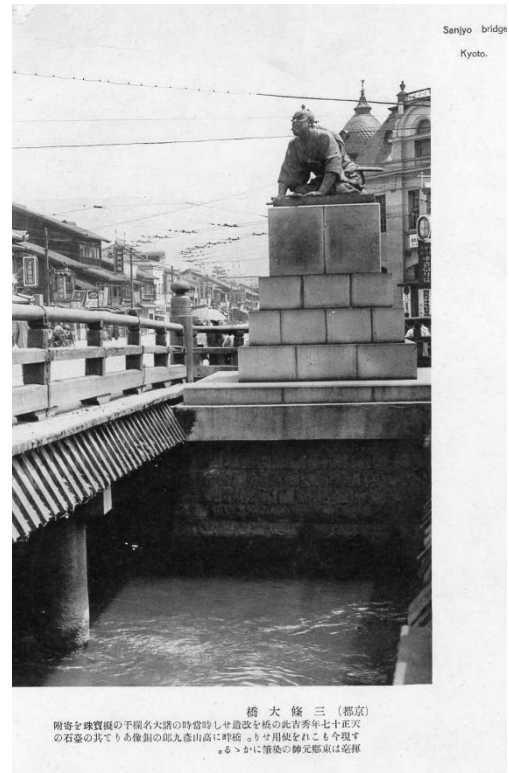
三条大橋に関する絵葉書を調べていると、高山彦九郎像に向かって右側に、「三条大橋」が写っている写真を見つけた。初代高山彦九郎像は1928年11月に作られ、戦時中の1944年11月に金属類回収令によって供出されるまで、三条大橋東詰南、鴨川運河の上に張り出すような形で設置されていた。したがって本来ならば、三条大橋は高山彦九郎像に向かって左側に見えるはずだ。なぜ、「三条大橋」が右側に写る写真があるのだろうか。

ここで、2つの仮説が浮かんた。1つ目は、高山彦九郎像が三条大橋の後ろに合成されている説である。古い絵葉書には、合成した写真を使用しているものがしばしば見られる。この絵葉書も、写真の背景に本来ならば東山や家屋が写っているはずだが、不自然に白いことから合成を疑った。また、三条大橋・高山彦九郎像・柳という写真に映え

る要素が揃っており、構図も整っている。しかし、合成でない可能性は否定できない。

2つ目は、高山彦九郎像に向かって右側に、もう1つの「三条大橋」が存在したという説である。写真の橋をよく見ると、欄干の木材が他の写真で見る三条大橋より細いことがわかる。また、写真の左奥にこの「三条大橋」以外の欄干が写っている。よって、この説が濃厚なのではないかと考えた。

更に複数の絵葉書を調べると、明確に2本の橋が写っているものがあった。どうやらこの橋は、京阪三条駅へアクセスするために鴨川運河上に架けられていたようだ。そばに三条大橋があったからだろうか、小さいながらも三条大橋によく似た見た目をしている。三条大橋に特徴的な木製高欄と擬宝珠も再現されており、京阪がいかに三条駅に力を入れていたかということが読み取れる。四条駅や五条駅のように、鴨川の堤防から三条大橋上に直接出入りできる構造の通路になってもよさそうなものだが、京阪三条駅はあえて東山側へ通路を設けた。その理由としては、三条大橋がそのまま鴨川運河を跨いでいたことや、京阪は三条駅が終点であり、京津電気軌道との接続を重視したことなどが考えられる。



|       |       |        |                                  |
|-------|-------|--------|----------------------------------|
| 1915年 | 大正4年  | 10月27日 | 京阪電気鉄道三条駅開業                      |
| 1922年 | 大正11年 | 12月28日 | 京阪 三条駅拡張完了                       |
| 1928年 | 昭和3年  | 11月9日  | 高山彦九郎像完成                         |
| 1935年 | 昭和10年 | 6月29日  | 鴨川水害                             |
| 1939年 | 昭和14年 |        | 京阪線3連化に伴い、琵琶湖疏水を渡る本線を単線化し、1番線を設置 |
| 1944年 | 昭和19年 | 11月    | 高山彦九郎像金属供出                       |
| 1949年 | 昭和24年 | 11月1日  | 京津線の三条大橋駅を京阪本線三条駅と統合             |
| 1949年 | 昭和24年 | 11月30日 | 三条総合駅竣工                          |

しかしこの橋は、現在はもとより、京阪三条駅が地下化される前の写真にも写っていない。この橋は、いつからいつまで存在していたのだろうか。絵葉書から読み取ると、高山彦九郎像が設置されるより前に作られていたことがわかった。また、京阪が三条まで延伸開業した時には三条大橋よりもやや南に駅が位置しており、橋は架かっていなかった。年表を見ると、1922年に京阪三条駅の拡張が完了しているため、この時に連絡通路として鴨川運河に橋が架けられたと考えられる。

戦後間もない1946年10月の航空写真にも鮮明に写っているが、1948年1月の航空

写真では消えているように見える。戦後の混乱期のため詳しい記録が見つからなかった。しかし、1949年11月に京津線三条大橋駅と京阪本線三条駅が統合され、三条総合駅が竣工するため、この工事に関連して取り壊されたのではないかとと思われる。

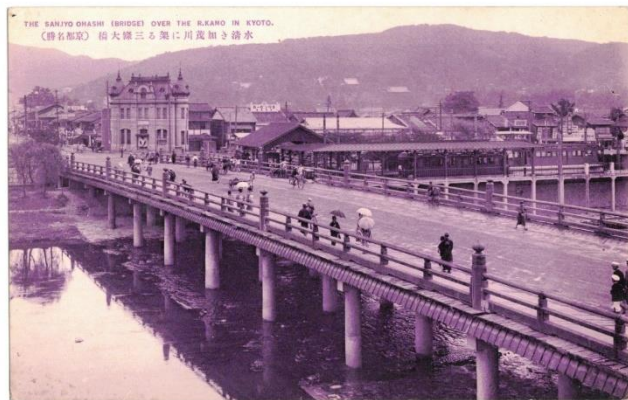


日頃、注目されることのないこの橋だが、よくよく調べてみると絵葉書や新聞に登場していることがある。中でも一番多く写っているのは、1935年京都大水害の時のものである。豪雨による洪水で三条大橋の一部が流されるという衝撃的な光景だったため、京都大水害を象徴する写真として多くの場所で使われている。一方で絵葉書や古写真に登場する頻度は少なく、写っていても非常に小さいことが多い。三条大橋を写真に収めるアングルは、西詰から東山を背景とするものが多く、三条駅のホームなどで隠れてしまい、見えなくなりがちだ。京阪三条駅を正面から写した写真がないものかと、探している次第である。

余談だが、地上時代の京阪本線三条から七条間は鴨川と鴨川運河を隔てる堤防の上を走っていた。一級河川の堤防を鉄道が走ることは大変珍しく、京都中心部に直線的な専用軌道を確保したことは先見の明があったといえる。明治期には近年出土した東京の高輪築堤など、堤防の上に線路を敷いていた場所もあったため、京阪本線建設も、それに影響を受けていたのではないだろうか。京阪と鴨川には今でも密接な関係があり、堤防の中に鴨川運河と京阪本線、上に川端通りが整備されている。交通整備と治水を両立させるという画期的な手法は、現代にも受け継がれ、市民の暮らしを豊かなものとしている。



1922 年ごろから 1948 年ごろに存在した、三条大橋を模した京阪三条駅の連絡通路は、あまり注目されないながらも、しっかりと記録に姿を残した。些細なことでも、記録に残っているというのが京都の特徴であり、魅力だ。これからも、このような歴史に埋もれ、忘れられかけている様々な事柄を掘り起こして、多くの人に伝えていきたいと思う。



#### 参考文献

- ・ 三条駅（京都府）, Wikipedia, 閲覧日 2021-07-20, < [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E6%9D%A1%E9%A7%85\\_\(%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%BA%9C\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E6%9D%A1%E9%A7%85_(%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%BA%9C)) >.
- ・ 京阪電気鉄道株式会社, 京阪百年のあゆみ, 京阪電気鉄道, 2011.
- ・ 蹴上～三条京阪, 京阪電車, 閲覧日 2021-07-20, < <https://www.okeihan.net/recommend/mizunomichi/michiannai/04/> >.